



堺市立新檜尾台小学校

平和の象徴・生命の木である「オリーブ」を通して児童生徒の自然科学の芽を育み、地域と協働して行う持続可能な社会づくり

小学校を核とした学・産・地域連携

目標は学校オリーブの6次産業化

大阪府堺市南西部に位置する堺市立新檜尾台小学校では、4年生44名が中心となって、今年度から校内でオリーブの木を栽培している。児童数減少で管理が行き届きづらくなった学習農園の活用方法を探っていたところ、地域のオリーブ農園主からオリーブ栽培に適した環境だと教示されたことがきっかけとなった。

以後、古谷俊之校長の「単に木を育てる一過性の活動にしたい」との思いから、大阪府立農芸高校と連携してオリーブオイル残渣を養豚飼料に加える共同研究を行っているほか、大阪公立大学などと協力して学校産オリーブの加工や商品化も模索。古谷校長は「生産から販売まで、1次～3次産業を合わせた学校オリーブの6次産業化が目標です」と胸を張る。



夏休みの水やり「オリーブの森」には、大阪・関西万博「静けさの森」に設置されていた「想うベンチ」が移設される予定



児童たちが手に持ったのは、全校児童による投票で選定した学校オリーブのマスコット「オリもち」

「これやりたい」が止まらない

活動に巻き込んだのは農園や高校・大学だけではない。「4年生だけで雑草取りは大変なので、校内イベントとして他学年生に手伝ってもらった」(尾尻花さん)、「夏休みの水やりは地域自治会の人たちに協力してもらい、ラジオ体操後に行った」(塩見友都さん)、と、他学年や地域も巻き込んでいる。

上述は総合学習で4年生が意見を出し合っ
て自主的に実行した。総合学習では自主的
なグループ研究も行っており、「オリーブの葉
のお茶を作って、品種による味の違いを調べ
たい」(井谷祐大さん)、「挿し木作りでオリ
ーブを増やしたい」(大橋翔さん)と、活動が広
がっている。総合学習担当の染手佳祐教諭
は「活動開始から約半年ですが、ほかにも、
肥料を作りたい、自分たちで搾油したいな
ど、子供たちの『これやりたい』が止まりませ
ん」と教育効果を実感。これを見た古谷校長
は、「我が意を得たり」と言わんばかりの笑み
を浮かべていた。(複数校連携助成1年目)



4年生が企画した雑草取りイベントの様子



地域の連合自治会の方々とともに挿し木を実施



大阪府立農芸高校の生徒による出前授業。オリーブオイル残渣の利用でSDGs教育にもつながる

●実施担当

古谷俊之 校長

●活動のモットー

「探究と協働をど真ん中におく学校づくり」を掲げ体験活動や本物志向を重視した科学的追究に力を注ぎ、自立貢献する人間づくりをめざす



学校概要



目指す子ども像は「社会の中で人とつながり、よりよく生きる子」。堺市の多様性推進策に伴い、民間出身の古谷校長が就任。

設立: 1979年

生徒数: 268人

所在地: 大阪府堺市南区新檜尾台3-7-1

この活動は、中谷財団の「科学教育振興助成」により行われています。



公益財団法人 中谷財団

〒141-0032 東京都品川区大崎1丁目2番2号 アートヴィレッジ大崎 セントラルタワー8階

中谷財団

検索



シスメックス株式会社創立者の故・中谷太郎が私財を投じて設立。BME(Bio Medical Engineering)分野の発展を願い、表彰事業をはじめ各種研究助成、若手研究者支援や国際交流事業を展開。さらに、すそ野拡大のため、小中高校生の科学探究活動に対し助成事業を行っている。2024年に設立40周年を迎え、「中谷財団」に名称を変更した。